

# 事業報告書

平成30年度

(第7期事業年度)

自：平成30年4月 1日  
至：平成31年3月31日

地方独立行政法人 三重県立総合医療センター

## 1 法人に関する基礎的な情報

### ① 目的

地方独立行政法人三重県立総合医療センターは、地方独立行政法人法に基づき、三重県の医療施策として求められる高度医療、特殊医療、救急医療等を提供し、並びに医療従事者の研修等の業務を行うことにより、県民の健康の確保及び県内の医療水準の向上に寄与することを目的とする。

### ② 業務内容

当法人は、地方独立行政法人三重県立総合医療センター定款第1条に規定する目的を達成するため、以下の業務を行います。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 非常時における医療救護等を行うこと。
- (3) 医療に関する地域への支援を行うこと。
- (4) 医療に関する教育及び研修を行うこと。
- (5) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

### ③ 基本理念

- 1 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより県の医療水準の向上に貢献します
- 2 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します

### ④ 基本方針

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます
- 5 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います

### ⑤ 設立年月日

平成24年4月1日

### ⑥ 所在地

三重県四日市市大字日永5450番地132

### ⑦ 資本金の額

1,099,272,714円

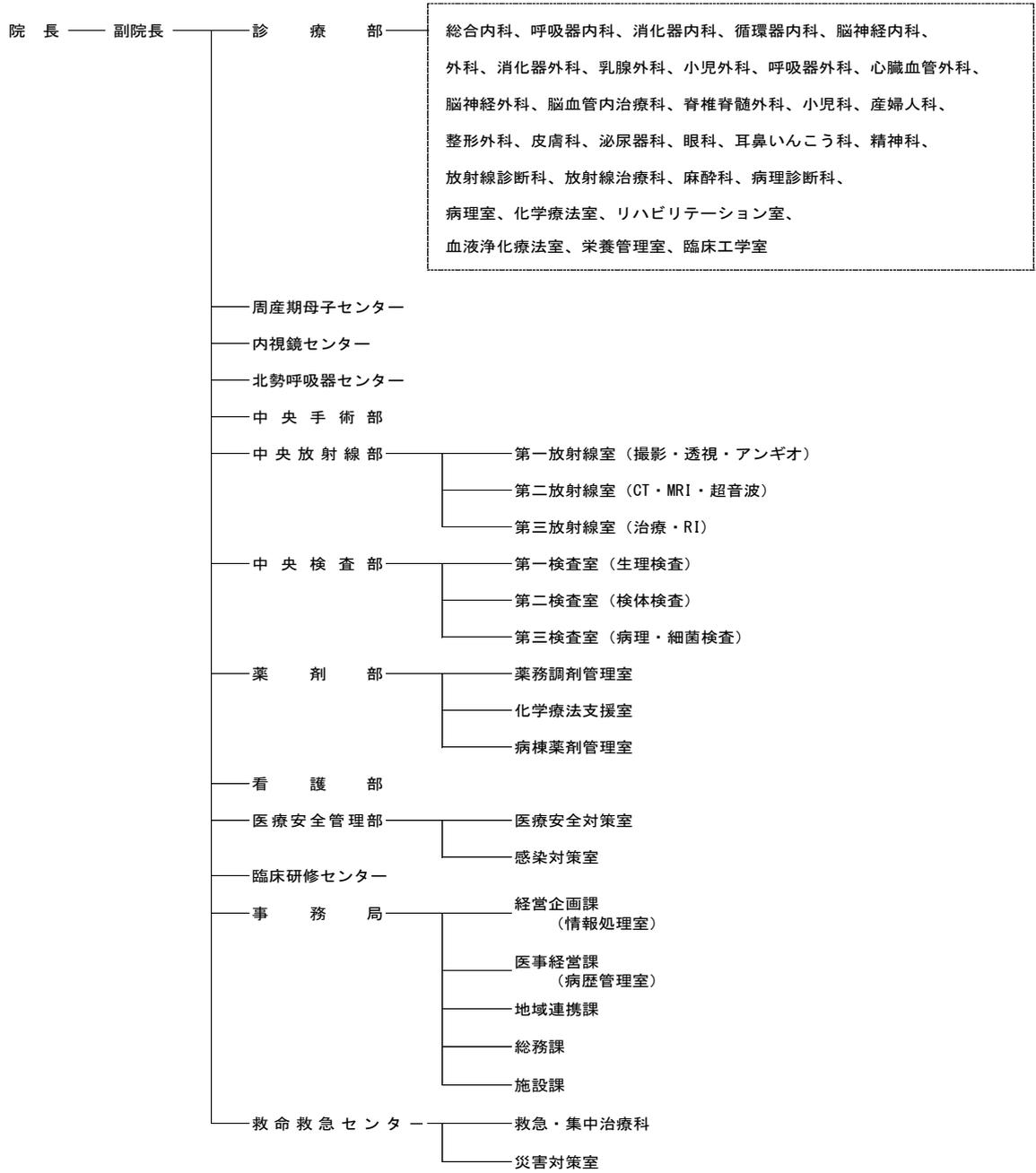
### ⑧ 役員の氏名、役職及び任期(平成30年5月21日現在)

職名	氏名	任期
理事長	新保 秀人	H30.4.1~R2.3.31
副理事長	白木 克哉	H30.4.1~R2.3.31
理事	牧野 克俊	H30.4.1~R2.3.31
理事	古橋 一壽	H30.4.1~R2.3.31
理事	川島 いづみ	H30.4.1~R2.3.31
理事	片山 直之	H30.5.21~R2.3.31
理事	荻須 理	H30.4.1~R2.3.31
理事	谷口 久幸	H30.4.1~R2.3.31
監事	佐久間 紀	H30.4.1~R1年度の 財務諸表承認日
監事	板垣 謙太郎	H30.4.1~R1年度の 財務諸表承認日

### ⑨ 常勤職員の数及び前事業年度末からの増減数並びに法人への出向者数

常勤職員は平成30年4月1日において667人（前事業年度末比28人増加、4.4%増）となっています。このうち、県からの出向者は20人です。

⑩ 組織図(平成31年3月31日現在)



## 2 財務諸表の要約

### (1) 要約した財務諸表

#### ① 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	8,490	固定負債	7,769
有形固定資産	7,949	長期借入金	1,417
無形固定資産	137	移行前地方債償還債務	2,943
投資その他の資産	404	引当金	3,258
		その他	151
流動資産	6,526		
現金及び預金	4,672	流動負債	2,548
医業未収金	1,738	1年以内返済予定長期借入金	443
その他未収金	27	1年以内返済予定移行前地方債償還債務	662
棚卸資産	89	未払金	967
		未払費用等	60
		預り金	60
		引当金	356
		負債合計	10,317
		純資産の部	金額
		資本金	1,099
		資本剰余金	2,706
		利益剰余金	894
		純資産合計	4,699
資産合計	15,016	負債純資産合計	15,016

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがあります。

#### ② 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	金額
経常収益 (A)	12,568
診療業務収益	10,609
運営費負担金収益	1,860
その他経常収益	99
経常費用 (B)	12,042
診療業務費	10,958
一般管理費	499
その他経常経費	585
臨時損益 (C)	0
当期純利益 (A-B+C)	526

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがあります。

③ キャッシュフロー計算書

科 目	金 額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー (A)	763
診療業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 40
運営費負担金収入	1,255
その他の業務活動によるキャッシュ・フロー	△ 271
利息の受払額	△ 181
II 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 76
III 財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	△ 661
IV 資金増加額 (又は△減少額) (D=A+B+C)	26
V 資金期首残高 (E)	4,646
VI 資金期末残高 (F=D+E)	4,672

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがあります。

④ 行政サービス実施コスト計算書

科 目	金 額
I 業務費用	1,384
損益計算書上の費用	12,042
(控除) 自己収入等	△ 10,658
(その他の行政サービス実施コスト)	
II 引当外退職給付増加見積額	14
III 機会費用	0
IV 行政サービス実施コスト	1,398

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがあります。

## (2)財務諸表の科目の説明(主なもの)

### ① 貸借対照表

#### 固定資産

有形固定資産：土地、建物、医療用器械備品など  
無形固定資産：ソフトウェア、電話加入権など  
投資その他資産：投資有価証券、長期前払費用など

#### 流動資産

現金及び預金：現金、預金  
医業未収金：医業収益に対する未収金  
棚卸資産：医薬品、診療材料

#### 固定負債

長期借入金：最終の返済期限が1年を超えて到来する銀行借入金  
移行前地方債償還債務：最終の返済期限が1年を超えて到来する財政融資資金など  
引当金  
（退職給付引当金）：将来支払われる退職給付に備えて設定される引当金  
その他：資産除去債務など

#### 流動負債

一年以内返済予定長期借入金：1年以内に返済期限が到来する銀行借入金  
移行前地方債償還債務：1年以内に返済期限が到来する財政融資資金など  
未払金：未払債務  
未払費用等：支払時期が到来していない未払債務  
預り金：一時的に預った金銭  
引当金  
（賞与引当金）：支給対象期間に基づき定期に支給する職員賞与に備えて設定される引当金

#### 純試算

資本金：県による出資金  
資本剰余金：資本助成として県から受入れた運営費負担金などの累計額  
利益剰余金：業務に関連して発生した剰余金

### ② 損益計算書

診療業務収益	： 医業（入院診療、外来診療、医療相談等）にかかる収益、診療業務にかかる補助金など
運営費負担金収益	： 医業及び借入金償還などにかかる県負担金
その他経常収益	： 営業外雑収益など
診療業務費	： 医業（入院診療、外来診療、医療相談等）に要する給与費、材料費、委託費、設備関係費（減価償却費を含む）など
一般管理費	： 一般管理部門にかかる給与費、経費（減価償却費を含む）など
その他経常費用	： 長期借入金、移行前地方債償還債務にかかる支払利息、看護師修学資金貸与費など
医業未収金	： 医業収益に対する未収金
棚卸資産	： 医薬品、診療材料

③ **キャッシュ・フロー計算書**

業務活動によるキャッシュ・フロー：

通常の業務の実施にかかる資金の状態を表す

診療業務活動によるキャッシュ・フロー：

医業にかかる収入、医業を行うための人件費、医薬品等の材料費購入による支出など

運営費負担金収入　：医業にかかる県負担金

その他の業務活動によるキャッシュ・フロー：

その他の業務活動による収入、一般管理部門の人件費支出など

投資活動によるキャッシュ・フロー：

借入金償還にかかる県負担金、固定資産の取得による支出など

財務活動によるキャッシュ・フロー：

長期借入金の借入による収入及び返済による支出、移行前地方債償還債務の償還による支出

④ **行政サービス実施コスト計算書**

業務費用　：損益計算書に計上される費用から国又は県からの財源によらない自己収入を控除したもの

機会費用　：設立団体（県）から出資を受けることや、国又は県から低利な融資を受けることによって発生する費用

### 3 財務情報

#### (1) 財務諸表に記載された事項の概要

##### ① 経常収益、経常費用、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの状況

###### (経常収益)

平成30年度の経常収益は12,568百万円となり、対前年度比320百万円増(2.6%増)となっています。これは、診療業務収益が対前年度比283百万円増(2.7%増)となったことが主な要因です。

###### (経常費用)

平成30年度の経常費用は12,042百万円となり、対前年度比363百万円増(3.1%増)となっています。これは、診療業務費が対前年度比284百万円増(2.7%増)となったことが主な要因です。

###### (当期総損益)

経常利益、当期総利益とも526百万円となり、対前年度比43百万円減(7.6%減)となっています。

###### (資産)

平成30年度末現在の資産合計は15,016百万円となり、対前年度比27百万円増(0.2%増)となっています。これは、固定資産が対前年度比35百万円減(0.4%減)となったことに対して流動資産が対前年度比62百万円増(1.0%増)となったことが主な要因です。

###### (負債)

平成30年度末現在の負債合計は10,317百万円となり、対前年度比499百万円減(4.6%減)となっています。これは、固定負債が対前年度比621百万円減(7.4%減)となったことに対して流動負債が対前年度比121百万円増(5.0%増)となったことが主な要因です。

###### (業務活動によるキャッシュ・フロー)

平成30年度の業務活動によるキャッシュ・フローは763百万円となり、対前年度比191百万円減(20.0%減)となっています。これは、診療業務費が増加したことが主な要因です。

###### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

平成30年度の投資活動によるキャッシュ・フローは△76百万円となり、対前年度比159百万円減(192.0%減)となっています。これは、投資有価証券の取得による支出が増加したことが主な要因です。

###### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

平成30年度の財務活動によるキャッシュ・フローは△661百万円となり、対前年度比275百万円減(71.3%減)となっています。これは、長期借入れによる収入が減少したことが主な要因です。

## 主要な財務データの経年比較

(単位：百万円)

区 分	平成29年度	平成30年度
経常収益	12,248	12,568
経常費用	11,679	12,042
当期純利益〔又は(△)損失〕	569	526
資産	14,989	15,016
負債	10,816	10,317
利益剰余金〔又は(△)繰越欠損金〕	368	894
業務活動によるキャッシュ・フロー	954	763
投資活動によるキャッシュ・フロー	83	△76
財務活動によるキャッシュ・フロー	△386	△661
資金期末残高	4,646	4,672

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがあります。

## ② セグメント事業損益・総資産の経年比較・分析

(区分経理によるセグメント情報)

### 事業損益の経年比較

(単位：百万円)

区 分	平成29年度	平成30年度
診療業務事業	△348	△349
一般管理部門	△404	△499
合 計	△752	△848

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがあります。

### 総資産の経年比較

(単位：百万円)

区 分	平成29年度	平成30年度
診療業務事業	14,240	14,265
一般管理部門	749	751
合 計	14,989	15,016

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがあります。

## ③ 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析

平成30年度の行政サービス実施コストは1,398百万円となっています。

### 行政サービス実施コストの経年比較

(単位：百万円)

区 分	平成29年度	平成30年度
業務費用	1,307	1,384
うち損益計算上の費用	11,679	12,042
うち自己収入	△10,372	△10,658
引当外退給付増加見積額	12	14
機会費用	1	0
行政サービス実施コスト	1,320	1,398

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがあります。

## (2) 重要な施設等の整備等の状況(主なもの)

### ① 当事業年度中に整備が完了した主要施設等

X線撮影装置	165,000千円
4K内視鏡システム	23,760千円

### ② 当事業年度において整備中の主要施設等の新設・拡充

該当なし

### ③ 当事業年度中に処分した主要施設等

該当なし

## (3) 予算及び決算の概要

(単位:百万円)

区 分	平成29年度		平成30年度	
	予算	決算	予算	決算
収 入				
長期借入金等	607	604	369	343
業務収入	11,111	12,038	11,356	12,326
その他収入	810	222	803	225
計	12,528	12,864	12,528	12,894
支 出				
業務経費	10,414	10,307	10,679	10,783
診療業務経費	9,991	9,906	10,255	10,293
その他の経費	423	401	424	490
施設整備費	646	634	394	421
借入金償還	990	990	1,004	1,004
支払利息	211	208	187	181
その他支出	172	37	140	335
計	12,433	12,176	12,404	12,724

(注) 計数はそれぞれ四捨五入によっているもので、端数において合計とは一致しないものがあります。

## (4) 経常収支等に関する目標及びその達成状況

当法人は、医業収益の確保と効率的な業務運営に努め、人件費比率、材料費比率等の適正化に取り組み、収支改善を図り、経常収支比率100%以上の達成を目指していたところ、平成30年度決算においては、医業収益が約277百万円増加したほか、材料費比率は26.7%（平成29年度は26.4%）と微増となったものの、給与比率が58.0%（平成29年度は58.0%）と前年度並みであったこと等により経常収支比率は104.4%（平成29年度は104.9%）となり目標を達成した。

## 4 事業に関する説明

### (1)財源の内訳

#### ① 内訳(運営費負担金、借入金等)

当法人の経常収益は、12,568百万円で、その内訳は、診療報酬等の自己収入10,658百万円(収益の84.8%)、運営費負担金収入1,860百万円(収益の14.8%)、その他収入50百万円(収益の0.4%)となります。

#### ② 自己収入の明細(自己収入の概要、収入先等)

当法人では、医療サービスを提供することにより10,658百万円の自己収入を得ています。この自己収入は診療報酬等の診療業務収益10,559百万円、その他99百万円となっています。

### (2)財務情報及び業務の実績に基づく説明

当法人は、三重県の医療施策として求められる高度医療、特殊医療、救急医療等を提供し、並びに医療従事者の研修等の業務を行うことにより、県民の健康の確保及び県内の医療水準の向上に寄与することを目的としています。

財源は、診療業務収入10,559百万円、運営費負担金収入1,860百万円等となっています。

費用は、診療業務費10,958百万円等となっています。

## 5 その他事業に関する事項

特記事項なし